

落葉果樹の果実及び葉の放射性セシウム濃度の経年変化

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質の分布状況の把握

研究課題名 果樹における放射性物質濃度の経年変化の把握

担当者 尾形亜希子、穴澤拓哉、佐藤寛人

I 新技術の解説

1 要旨

東京電力福島第一原子力発電所事故後の果樹園における放射性物質の分布状況を把握するため、主要果樹（モモ、ナシ、リンゴ、カキ）の成熟期における果実及び葉の放射性セシウム濃度を測定した。果実及び葉の放射性セシウム濃度は樹種によって異なるが、事故後2年目以降漸減し、低い値で推移している。

- (1) 果樹研究所（福島市）におけるナシ「幸水」、リンゴ「ふじ」、カキ「蜂屋」及び伊達郡桑折町伊達崎におけるモモ「はつひめ」の果実の放射性セシウム濃度は、事故後2年目以降漸減し、低い値で推移している（図1～4）。
- (2) 葉の放射性セシウム濃度も各樹種とも事故後2年目以降漸減し、低い値で推移している（図1～4）。

2 期待される効果

- (1) 果樹における果実及び葉の放射性セシウム濃度の経年変化を把握することで、安全・安心な果樹生産につなげる一助とすることができる。

3 活用上の留意点

- (1) 果樹研究所の調査樹は樹体洗浄を実施していない。
- (2) 原発事故後13年目までの結果である。
- (3) ほ場の土壌条件や周辺環境等により異なるので、注意が必要である。

II 具体的データ等

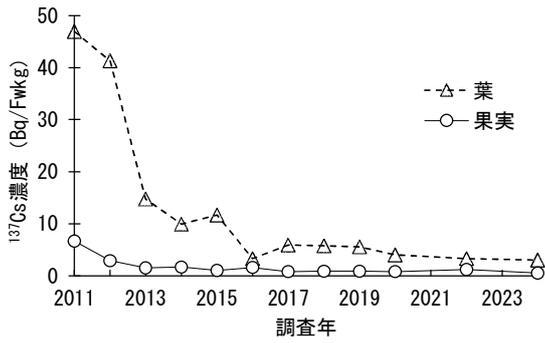


図1 ナシ「幸水」果実及び葉の¹³⁷Cs濃度の推移
(果樹研究所)

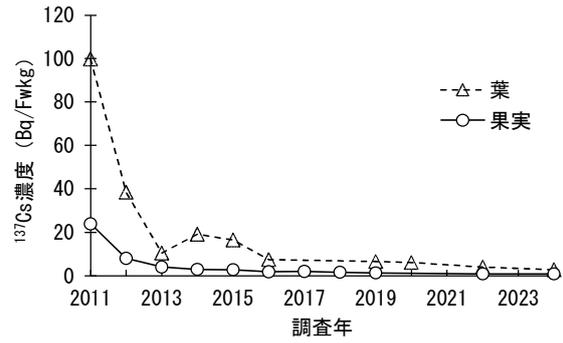


図2 リンゴ「ふじ」果実及び葉の¹³⁷Cs濃度の推移
(果樹研究所)

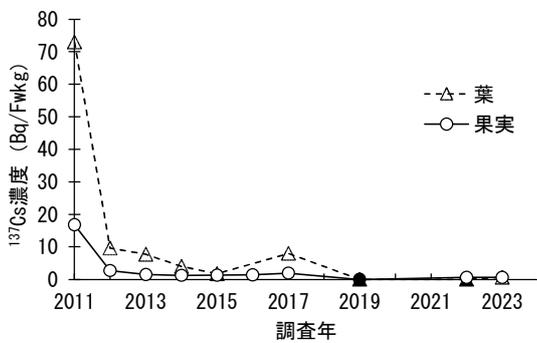


図3 カキ「蜂屋」果実及び葉の¹³⁷Cs濃度の推移
(果樹研究所)

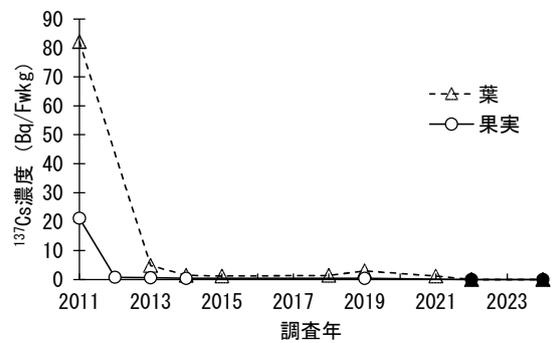


図4 モモ「はつひめ」果実及び葉の¹³⁷Cs濃度の推移
(伊達郡桑折町伊達崎)

図3、図4の●、▲は検出限界値未満である。

III その他

1 執筆者

尾形亜希子

2 実施期間

平成23～令和6年度

3 主な参考文献・資料

(1) 小松ら, 果樹の葉及び果実中セシウム濃度の経年変化, 令和4年度放射性関連支援情報